

農林水産大臣賞

なかつがわ農家民宿組合（山形県飯豊町(いいでまち)）

～中津川から首都圏そして世界へ！ 食と農の大切さを世界中に発信～

組織概要

- 代表者 組合長 鈴木 みち
- 所在地 山形県飯豊町中津川地区
- 構成員 生産者20名
- 活動開始年 平成19年



受賞のポイント

- 過疎化が進む中、地域の活性化等を図るために農家が民宿の許可を取得し、農家民宿組合を立ち上げ、**一貫して地場産食材を使った郷土料理を提供**することで、**宿泊者の増加が図られ、地場産物の生産拡大**により地域農業の振興につながっている。
- 1軒の受入を5人までとし、農業体験や料理などを宿泊者と一緒にすることや郷土料理や伝統文化の言われ話をするなど、**宿泊者との交流を密に行うことで、地産地消と食育に対する理解を深めている。**
- 企業や大学生の研修などの受け入れによる客層の広がりに対応し、地場産物を使用した新たな料理を開発・提供することで、更なる地場産物の利用拡大につながっている。

取組内容

■取組みの経緯・成長の契機

- ・ダムの建設に伴い、中津川地区の過疎化が進行。地域に人を呼び込もうと、独自の村づくりとして様々な活動を行う中で、平成16年に山村留學生の受入を開始。平成19年には、山村留学「里親の会」を中心に農家民宿の許可を取得し、都市部の中学生の教育旅行を受け入れる「なかつがわ農家民宿組合」を立ち上げる。
- ・その後、平成20年に旧中津川小中学校の廃校の方針が決まったことにより、教育旅行の受け入れを増加させるとともに、台湾からの田舎暮らし体験の受け入れや企業や大学生の研修の受入を開始。受入窓口を組合組織としたことで、旅行業者が安心して誘客し、現在は**10軒の農家民宿で年間約1,000人を受入れている。**

■取組みの特徴・活動の強み

- ・民宿組合では、自家野菜や地元の山菜、ヤマメ、伝統野菜の宇津沢かぼちゃ等の使用を取り決めて、**一貫して地場産食材を使った四季折々の郷土料理を提供することにより、**宿泊者が増加し、農家の自信につながっている。
- ・1軒の受入を5人までとし、野菜収穫等の農業体験のほか、収穫した野菜等を使用した料理を農家と一緒に作ることや食事をしながら、郷土料理や伝統文化の言われ話をする等、宿泊者と交流を密に行うようにしている。
- ・客層の広がりに対応し、飯豊産米沢牛を使った「ビーフシチュー」、野草等を活用した「摘み草料理」、「宇津沢かぼちゃ」等を使用した新たな料理を開発し提供することで、更なる地場産物の利用拡大につながっている。

■地域への貢献・波及効果

- ・企業や大学生等に農村での体験が受け入れられることで、**組合員が地域の自然、文化に誇りを持ち、自信につながっている。**
- ・地場産食材を使った料理を提供することで地場産物の生産が振興されるとともに、**宿泊者数の増加により新たな農家民宿の開業も予定**されるなど地域の活性化につながっている。